

2022年度 シラバス原簿						タイトル		講義内容と事前事後学習内容	
科目名 英語名	大学院特別講義「現代社会を知る」 Lectures of special courses of Graduate School ～Concerning Modern Society～					1 週	ガイダンス、世界の日本の現状	事前 2.5hr	シラバスの内容を読んでおく。自分が千葉工業大学に入学し学ぶと思った動機を振り返り、まとめておく。
								事後 2.5hr	講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。
科目 担当者	小宮 一仁					2 週	国の政策を考えるオンディマンド	事前 2.5hr	日本の重要港湾について調べて、まとめておく。
								事後 2.5hr	島国である日本は国の発展を国際物流に依存しているといっても過言ではなく、国際物流における日本のプレゼンス確保は極めて重要な政策課題である。このような観点から、国際物流を通して日本と世界を俯瞰し、如何にして日本がリーダーシップを発揮していくべきかについて考察する。【講義担当：田代政司特別教授(元会計検査院事務総長)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】(オンディマンド)
開講学期	時間数	単位	科目の区分	曜日時限	履修制限	3 週	国の契約制度を学びそれぞれの対応を考える	事前 2.5hr	再生可能エネルギーは今後の主力電源と位置付けられており、カーボンニュートラルを実現する大きな柱となっている。特に、洋上風力発電は大規模化等による発電コストの低減も期待されており、日本において本格導入が始まった。我が国において今後大きな発展が予想されている洋上風力発電を軸に現代社会を考えていきたい。【講義担当：田代政司特別教授(元会計検査院事務総長)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】(オンディマンド)
4・6学期	2	2	選択	木曜日7・8限	特になし			事後 2.5hr	講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。
目的	[目的] 大学院生の知識・教養を高めるとともに、現代社会における社会問題・時事問題の背景や本質を理解し、問題解決のための考え方、手法を知ることによって、問題解決能力を向上させることを目的とする。  [授業概要] 学事顧問及び特別教授が、社会問題・時事問題の事例を取り上げ講義を行う。講義に関連して、問題解決のための課題を出題し、課題を解くことによって問題解決能力の向上をはかる。					4 週	港湾の国際競争力について考える	課題解決型	<input checked="" type="checkbox"/>
								グループワーク	<input type="checkbox"/>
								ディスカッション	<input checked="" type="checkbox"/>
								ディベート	<input type="checkbox"/>
								プレゼン	<input type="checkbox"/>
課題演習	<input checked="" type="checkbox"/>								
フィールドワーク	<input type="checkbox"/>								
注意事項・ 学習アドバイス	※対面形式とオンディマンド配信を併用します。対面形式の授業がオンディマンド配信の授業かは、現在の予定を講義内容の欄に記載してありますが、変更がある場合は前回の授業終了までにお知らせします。 ※この科目は寄付講座ですので、担当講師は千葉工業大学学事顧問及び千葉工業大学特別教授となります。講義に関するお問い合わせは、教務課に連絡して下さい。					6 週	国際社会を規律する国際法とは？	事前 2.5hr	今日日本が政治的、経済的、文化的に国際社会と密接に結びついているかについて理解を深める。また、そもそも国家や国民とは何か、これを規律する国際法の基本原則は何かを理解し、我々が国際的ルールの下に生きていることを理解する。また、日中関係および日韓関係の現状と課題について国際法の観点から考察する。【講義担当：清水武則特別教授(元モンゴル国駐節特命全權大使)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】(オンディマンド)
								事後 2.5hr	講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。
到達目標	・自分が学んでいる専門分野と現代社会の動向を結びつけて考えることができる。 ・工学分野が現代社会と強い関係性にあることを理解し、その一例を説明することができる。					7 週	国際の平和と安全の維持	事前 2.5hr	ウクライナ問題で見た国際法の限界について調べて、まとめておく。
								事後 2.5hr	国連、国際司法裁判所など国際社会の平和と正義の維持の装置の内容とそれらの機能の限界を知り、「今」の不安定な国際社会をどう日本が生きていけるのかを考える。同時に現在進行中のロシアのウクライナ侵攻など現実起こっていることと重ね合わせて、「平和」の問題を検討する。【講義担当：清水武則特別教授(元モンゴル国駐節特命全權大使)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】(オンディマンド)
評価基準	期末試験 0% 中間試験 0% 小テスト(0回)0% 提出物(1回)100% プレゼン(0回)0%					8 週	戦争領域の変化と科学技術(1)	事前 2.5hr	現在の日本周辺の安全保障について調べて、まとめておく。
	各授業において講義担当者から授業に関連する調査や考察に関する課題が出題される。これらの課題の解答を提出する必要はないが、授業最終週にこれらの課題に関連した提出の必要のある総合課題を2題程度出題し、提出された課題の解答の得点によって成績を評価する。							事後 2.5hr	日本の歴史的、地政学的な位置付けを理解し科学技術と日本の安全保障戦略の関係を理解するための必要な事項を講義する。【講義担当：[岩村公史特別教授(元陸特)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】(オンディマンド)
関連科目	なし					9 週	戦争領域の変化と科学技術(2)	事前 2.5hr	科学技術と安全保障について考え、まとめておく。
								事後 2.5hr	講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。
参考書・参考資料等	必要な場合は授業で提示する。					10 週	科学技術者の倫理について考える	事前 2.5hr	ハイゼンベルグについて調べて、まとめておく。
								事後 2.5hr	講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。
参考書・参考資料等	必要な場合は授業で提示する。					11 週	負ける建築とは？	事前 2.5hr	建築家中村拓志について調べて、まとめておく。
								事後 2.5hr	建築家中村拓志を取り上げ、隈研吾が提唱する負ける建築の意味を探る。【講義担当：[土屋恵一郎特別教授(前明治大学学長)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】(対面)
参考書・参考資料等	必要な場合は授業で提示する。					12 週	ウクライナ問題と東アジア情勢を考える	事前 2.5hr	日々刻々と変化する政治情勢やそれを伝える報道の基本的な仕組みについて特にロシアによるウクライナ侵攻や日本を含む東アジアの情勢について歴史的な背景を含めて講義する。また、世界の中で日本が置かれている状況や、日本の政治に求められている役割についても触れる。【講義担当：石橋文登特別教授(元産経新聞編集局長次長・政治部長)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】(対面)
								事後 2.5hr	講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。
参考書・参考資料等	必要な場合は授業で提示する。					13 週	第4次産業革命をどう生きるか	事前 2.5hr	入試から、大学および大学院での授業、そして大学生生活を振り返って、それが自分の将来に役に立つかどうかを考えておく。
								事後 2.5hr	第4次産業革命によって世界は大きく変化しようとしている。特にICTの発展により、人々の働き方に大きな変化が生じている。勤労感謝の日を今日、現在、また将来の、人々の働き方の変化について講義し、日本における課題について考察する。【講義担当：小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】(対面)